経時劣化が避けられない素材です。 天然皮革に比べて安価・軽い・柔軟性に富むなどの特性がある反面 ポリウレタン樹脂などを織編物にコーティングした合成皮革は

今回は、 合成皮革のポリウレタン樹脂が劣化した事例を紹介します。

> 材 特性 に注意

監修/クリーニング綜合研究所

衣類の状態

貼りついた状態になっていたもの。 たところ、コートの表面がべたつ となっている。 はないが、ポリウレタン100% き、返却時にかけたポリカバーが 長期間保管し、着用しようと出し 組成表示には合成皮革の表示 クリーニング返却後にお客様が

コー ティングしているポリウレ

> 作用などで劣化し、粘着したもの タン樹脂が、空気中の水分による

事故の防止対策

けることができないため、 な防止策はない。 ウレタン樹脂の経時的な劣化は避 合成皮革などに使用されるポリ

かになっており、クリーニング事 常2~3年で劣化することが明ら 分による加水分解などにより、 ポリウレタン樹脂は空気中の水 通

抜本的

故賠償基準では合成皮革 (ポリウ

●汚れが付着しやすく、かつ着用

れも不可を表示している製品が

い、ドライクリーニングのいず

製品かどうかを確認する(水洗

材…表地 ポリウレタン 100% 裏地 ポリエステル 100%

(JIS L 0217 の取扱表示記号を使用)

べたつきやひび割れなどの兆候 等が生じていることがある) 脇下などに異常がないかを確認 摩擦を受けやすい生地の折返し する(汚れが合成皮革の劣化を 着用摩擦で剥離、脱落 裾回り、

数を3年としている。

レタン樹脂)の外衣の平均使用年

製品を製造してから2年以上経 しており、 期に関係なく樹脂の劣化が進行 過している場合には、購入の時 剥離等が生じる可能性のあるこ ることが望ましい できないことを伝え、お断りす 能性が高いためクリーニングが があるものは剥離等の生じる可 クリーニング処理で

の多くは基布とスポンジ層と皮膜

ング(塗布)したもの。

合成皮革

にポリウレタン樹脂などをコーティ

合成皮革は、織物や編物の基布

対しての注意事項

合成皮革製品全般に

の3層構造になっている。劣化は、

スポンジ層と皮膜の両方の部位に

のような配慮が求められる。

合成皮革製品全般に対して、

●取扱表示などを参考に、

洗える

とを伝える

前の製造と判断してよい は、2016年(平成28年)以 表示記号が使われている製品 0217の取扱い絵



合成皮革のポリウレタン樹脂が劣化して粘着している





コート表面がべたつき、ポリカバーが貼りついている